

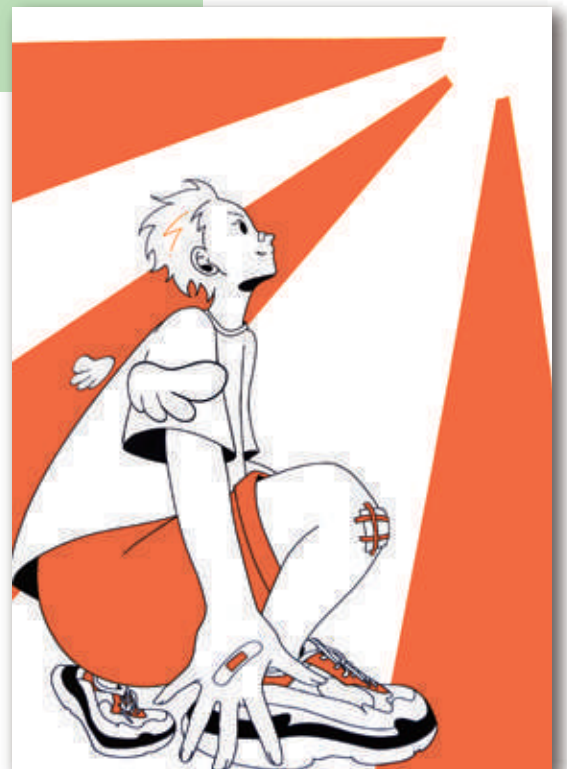
誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を
持って自ら伸び、育つ教育を目指して

東京都教育施策大綱



令和3年3月

 東京都



「未来の東京」に生きる子供たちのために

新型コロナの猛威により、世界は今、100年に一度とも言われる未曾有の危機に直面しています。世界経済の変化や第4次産業革命の進展は、スピードを更に増し、少子高齢・人口減少社会の進行もより深刻な状況となり、さらには気候変動が人類の持続可能性を危機に晒しています。

また、新型コロナとの闘いは、我が国が世界の変革のスピードから大きく遅れを取っているという、厳しい現状を浮き彫りにしました。

目の前に困難が立ちはだかる今だからこそ、我々が目指す理想はどこにあるのか、未来の東京の姿について、展望していかなければなりません。

「人」を育む教育の在り方も、従来の発想からの転換が求められています。

「チルドレンファースト」の社会を実現し、「未来の東京」に生きる子供たちが、個性や特長を生かして、生き方や働き方を自ら選び、生涯を通じて、スキルや知識をアップデートしながら、様々な困難を乗り越えて、それぞれの人生を生き抜いていけるよう、一人ひとりを社会全体で大切に育てていくことが重要です。

そのためにも、教育のDXにより、いかなる状況でも学びを止めない環境をつくりあげ、東京の強みでもある豊富な社会資源を最大限に生かしながら、社会の宝である子供の学びを支えていきます。

子供の意欲を引き出し、主体的に学び続ける力を育み、ICTの活用により一人ひとりの力を最大限に伸ばす。これらの「学び」を実践し、絶えず改善を繰り返しながら、理想の教育を追求していく。

こうした全体の姿を新たな「東京型教育モデル」として位置付け、子供たちの成長を支えていきます。

このような考えの下、今後の東京の教育施策の基本的な方針を示す、新たな「東京都教育施策大綱」を策定しました。これまでの「東京都教育施策大綱～東京の輝く未来を創造する教育の実現に向けて～」の考え方や様々な取組による改革の流れを受け継ぎながら、いま直面している危機を乗り越え、明るい未来を切り拓くため、新しい時代の教育を確立していきたいと思えます。

今後、この新たな「東京都教育施策大綱」に基づき、知事と教育委員会が一体となって、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ東京を創り上げていきます。



令和3（2021）年3月

東京都知事

小池百合子

目 次

第1章 「未来の東京」とそこに生きる子供たちの姿

- 1 「未来の東京」の姿
- 2 「未来の東京」に生きる子供の姿

第2章 東京における教育の在り方

- 1 東京の目指す教育
- 2 「東京の目指す教育」の実現に向けて
 - (1) 実現に向けた取組
 - (2) 基軸となる3つの「学び」
 - (3) 3つの「学び」を実践するための視点
- 3 「東京型教育モデル」の実践
 - (1) 「東京型教育モデル」とは
 - (2) 「東京型教育モデル」における学びの場

第3章 「東京型教育モデル」で実践する特に重要な事項

- 1 一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現
- 2 Society5.0時代を切り拓く^{ひら}イノベーション人材の育成
- 3 世界に羽ばたくグローバル人材の育成
- 4 教育のインクルージョンの推進
- 5 子供たちの心身の健やかな成長に向けたきめ細かいサポートの充実
- 6 子供たちの学びを支える教師力・学校力の強化

参考資料

- ・『『東京都教育施策大綱（案）骨子』に対する都民への意見募集』の結果について
- ・「児童・生徒からの意見の聞き取り」の結果について

第1章



「未来の東京」とそこに生きる子供たちの姿



第1章 「未来の東京」とそこに生きる子供たちの姿

1 「未来の東京」の姿

- 東京は世界でも有数の成熟した都市であり、これからもその豊かさを維持しながら、真に魅力的な都市として発展し続けなければなりません。
- グローバル化等により様々な人をつながる多文化共生社会の進展や、AI、IoT、ビッグデータ等、先端技術の社会実装による Society5.0 時代が到来しつつある中、徹底したデジタルトランスフォーメーションにより、「魅力と強さを兼ね備えたまちづくり」を推進し、世界における東京の存在感を更に向上させていくことが必要です。
- 新型コロナの危機は、私たちの暮らしや働き方に大きな変化をもたらすと同時に、デジタル化の遅れなど、日本社会が抱える構造的な課題を改めて浮き彫りにしました。
- 国難ともいえる危機に直面している今だからこそ、課題の根源まで踏み込んで、改革を強力に推進していく必要があります。
- また、新型コロナウイルス感染症によって疲弊した経済や社会、人々の心を回復させながら、未来に向けた復興を目指す中で、人々の持続可能な生活を実現するためには、「サステナブル・リカバリー（持続可能な回復）」という新たな視点が重要です。
- 「新しい日常」の定着や、デジタルトランスフォーメーションなどによって、質の高い暮らしや機能的なまちづくり、人々の心の豊かさを追求し、多様性と包摂性にあふれた「人が輝く東京」を実現していきます。

2 「未来の東京」に生きる子供の姿

- 子供は、「未来の東京」の担い手であり、「社会の宝」です。
- 子供たちが調和のとれた大人に育つためには、学校だけでなく、家庭や地域が果たす役割が大きく、それぞれが互いに連携し、すべての子供が社会全体で大切にされ、支えられて、笑顔で伸び、育つ環境を整えていかなければなりません。
- 予測困難なこれからの時代において、子供たちには、常に社会の変化を柔軟に受け止め、生涯にわたって様々なことに粘り強く挑戦し、自ら学び続けていく姿勢が必要です。
- これまでのロールモデルに頼るのではなく、一人ひとりが、個性や能力を最大限に伸ばし、自らの希望や意思に基づいて、人生を選択できるようにしていく必要があります。教育には、その素地を養うことが求められています。
- そこで、本大綱では、「未来の東京」に生きる子供の姿を、次のように描きます。

【「未来の東京」に生きる子供の姿】

- 自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓ひらいていくことができる
- 他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する

子供たちがこのように育っていくためには、次のような資質が必要になります。

【「未来の東京」に生きる子供の姿】

■ 自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓ひらいていくことができる

【求められる資質】

- これからの変化の激しい社会を生きていくに当たっては、子供たち自身に、生涯にわたって遭遇する課題や抱える悩みにしっかりと向き合い、能動的に解決しながら生きていこうとする姿勢が求められます。
- これからの社会では、進化したAI等の先端技術により、社会や生活が大きく変化するとの予測がされています。また、それによって、人間の職業が奪われるのではないかといった不安の声もあります。
- しかし、AI等の先端技術は、人の仕事を奪うのではなく、業務の省力化・効率化に寄与し、人手不足の解消のほか、働き方の根本的な変革や新しい仕事生まれる契機と捉えることもできます。
- 未来を切り拓ひらく子供たちには、進化し続ける先端技術をどう使い、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を、自ら考えだすことができる力が求められます。
- そのためには、文章の意味を正確に理解する読解力、授業で学んだ知識を活用して自分の頭で考え、その考えを表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し、新しい答えを生み出す力などを身に付けることが必要です。
- 同時に、知識の習得だけでなく、自分の可能性を自分で認め、自己肯定感や自己有用感を持って、どのように人生や社会をより良いものにしていくのか、自ら考え、時にはリカレント教育にも挑戦しながら、その持てる力を不断に伸ばし、発揮していくことができるようにする必要があります。

【「未来の東京」に生きる子供の姿】

■ 他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する

【求められる資質】

- 多様な人々が共に暮らす社会においては、様々な背景や価値観を持つ人が、違いを認め合いながら、支え合うこととなります。そのような社会を生きる子供たちには、自分をありのままに受け止めるとともに、他者を大切にし、お互いを理解、尊重する気持ちを育てることが重要です。
- 特に、デジタルツールを介したコミュニケーションの機会がますます増加していくこれからの社会においては、これまで以上に相手の状況や立場を理解し、共感と思いやりの心を持つことが不可欠です。
- また、新たな社会を築いていく意識を持ち、そのために何をすべきか、自ら考え、行動することができる力を身に付けていく必要があります。
- 我が国には、礼節を重んじ、互いに助け合って生活する国民性や美徳があります。こうした伝統を、道徳教育などを通じて引き継いでいくとともに、他者への思いやりや、掛け替えのない生命を大切に作る気持ちを、一人ひとりの子供に確実に育てていくことが重要です。

第2章



東京における教育の在り方



第2章 東京における教育の在り方

1 東京の目指す教育

- 第1章で示した「自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる」、「他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する」といった子供の姿を実現するためには、子供たち一人ひとりに着目して、自立性や主体性、創造力、課題解決力などを伸ばしていく学びへと教育の在り方を大きく転換する必要があります。
- また、学校だけでなく、家庭や地域が互いに連携して子供を支える環境を整えていかなければなりません。
- そのため、これまで以上に都民目線や現場目線を徹底し、施策を検討し、実現していく必要があります。
- 学校においても、子供や保護者、教職員等の目線を大切にしながら、新しい時代に対応した教育の在り方について、制度面も含め、確立を目指していきます。
- 子供たちが、自らの人生を豊かなものとし、未来の社会の担い手として生き生きと活躍していくためには、子供目線を大切にしながら、その成長を社会全体で見守り、支えていくことが重要です。
- また、社会全体で子供たちの学ぶ意欲や学ぶ権利を支え、子供たちが抱える悩みにも丁寧に関わり添うことで、誰一人取り残さない教育を実現し、すべての子供が将来への希望を持って、伸び、育つ東京を創り上げていきます。
- このような考えに基づき、本大綱においては、今後、東京が目指すべき教育を、以下のとおり示します。

【東京の目指す教育】

誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、

自ら伸び、育つ教育

2 「東京の目指す教育」の実現に向けて

(1) 実現に向けた取組

- 「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育」の実現に向けて、子供たちが「自ら伸び、育つ」「将来への希望を持つ」「誰一人取り残さない」ことができるよう、以下のとおり取り組んでいきます。

① すべての子供が自ら伸び、育つために

- すべての子供が自ら伸び、育つためには、子供たちの持つ力や伸びようとする意欲を引き出すことが必要です。
- 現在、一人ひとりの子供のおかれた状況は様々です。
- また、特別な支援を必要とする子供の数は、年々増加しています。同時に、子供の状況に応じた支援の輪が広がっています。多様な学びの場の整備が進み、心のバリアフリーが浸透していく中で、一人ひとりの子供が、状況に応じた支援を得ながら活躍できる世界が広がっています。
- 加えて、グローバル化を背景として、学習に言葉の壁を抱える子供も増えていきます。学校は、様々な国や地域にルーツを持つ子供が共に学ぶことが当たり前の環境となり、多様な言語に対応した学習ツールの開発等も進みつつあります。
- 多様な悩みを抱える子供たちを支えながら、一人ひとりの違いを個性として受け止め、それぞれが自ら伸びようとする意欲を引き出す学びを実現していきます。

② 子供たちが将来への希望を持つために

- 子供たちが将来への希望を持つためには、将来の自分の姿を具体的にイメージできるようにすることが必要です。
- 学校での学びは、社会での自己実現に向けた大切なステップであり、子供たちが、学校での学びが社会や自分の将来とどのようにつながっているのかを意識し、学びの意義や意味を理解できるようにすることが求められます。

- 学校が社会とのつながりを深め、併せて子供たちの自己肯定感や自己有用感を高める取組を充実させることで、子供たちが自分の希望する将来への道がつながっていることを実感できる学びを積み重ねていきます。

③ 誰一人取り残さないために

- これからの社会では、デジタルトランスフォーメーションが、あらゆる分野に影響を及ぼすと考えられます。
- 教育においても、子供一人1台端末の環境整備が進み、子供たち一人ひとりの学ぶ環境が変化し、充実してきました。
- 今後は、学校におけるこれまでの実践に、デジタル技術の活用を加え、あらゆる場面で学びを充実させていきます。
- デジタルの力によって、子供たち一人ひとりの理解や学習の進度に応じた学びを提供するとともに、多様な場で多様な学びを実現していきます。

(2) 基軸となる3つの「学び」

- 「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育」を実現するためには、日々の教育活動の中で、様々な「学び」を組み合わせながら、子供の状況に合わせた「学び」を提供していく必要があります。
- 本大綱では、以下の3つの「学び」を、「東京の目指す教育」の実現に向けた基軸として定め、実践していくこととします。
- これらは、「東京の目指す教育」の実現に向けた「学び」であると同時に、日々の教育活動の取組を形作る「学び」でもあり、それぞれを強化していくことが重要です。

【3つの「学び」】

- 子供の個性と成長に合わせて意欲を引き出す「学び」
 - 子供の成長を社会全体で支え、主体的に学び続ける力を育む「学び」
 - ICTの活用によって、子供たち一人ひとりの力を最大限に伸ばす「学び」(教育×DX※)
- ※ DX=デジタルトランスフォーメーション

(3) 3つの「学び」を実践するための視点

- この3つの「学び」を実践するに当たっては、未来の社会の担い手であり、学びの主演である子供自身の目線を大切に、東京の強みを最大限生かしながら、東京ならではの、教育を展開していきます。

① 子供目線を大切にする

- 「未来の東京」の担い手である子供たちが、生涯にわたって様々なことに粘り強く挑戦し、自ら学び続けていくためには、教育においてその素地を養う必要があります。
- そのため、子供たちが様々な体験や経験等によって新たな気づきを得て、意欲を持って主体的に学ぶことができるよう、子供の目線を大切にしたい学びを実現していきます。

② 東京の強みを生かす

- 東京には、多様な専門人材や最先端の企業、高度な研究機関など、豊富な社会資源が集積しています。また、コロナ禍を経た現在、あらゆる分野でデジタルトランスフォーメーションが加速しており、これらは東京の強みとなっています。
- 教育の分野においても、これまで積み上げてきた教育の成果を発展させていくとともに、これらの強みを最大限に生かしていきます。

「東京の目指す教育」の実現に向けて、「子供目線」や「東京の強み」という視点を踏まえた、3つの「学び」を基軸として、それぞれを充実・強化するとともに、有機的に連携させながら施策を展開していきます。

なお、3つの「学び」の具体的な考え方は、以下のとおりです。

③ 3つの「学び」の具体的な考え方

[子供の個性と成長に合わせて意欲を引き出す「学び」]

- 子供たちが意欲を持って主体的に学ぶためには、「なぜそのことを学ぶのか」、「学んだことがその後の人生や社会でどう役立つのか」という「各教科等を学ぶ意義」や、「学ぶことの楽しさ」について、実感を伴って理解できることが必要です。
- また、子供たち一人ひとりの学習の進度や興味・関心の度合い、発達の段階などに応じた教育を提供するためには、変化する子供の状態を随時把握し、常に改善を図りながら、実践を継続していくことが求められます。
- 学校においては、社会の動向や進化するデジタル技術の状況を踏まえ、それらを柔軟かつ適切に組み合わせて活用し、一人ひとりに最適な学びを提供していきます。その中で、教員がファシリテーターとして、子供たち一人ひとりの意欲を引き出し、探究的・主体的な学びを導き、教育の質を向上させていきます。

[子供の成長を社会全体で支え、主体的に学び続ける力を育む「学び」]

- 複雑で予測困難な未来の社会の担い手となる子供たちが、新しい時代に求められる資質・能力を身に付けられるようにするためには、これまで以上に学校と社会が協力・連携して取り組むことが必要です。
- 学校や教員の力だけで、子供たちの教育のすべてを担うという考えではなく、教育の目的や理念を社会と共有したうえで、地域や社会の人的・物的資源を積極的に活用して教育の体制を確保し、連携・協働することにより、制度面も含めて、新しい時代に対応した教育の実現を目指していくことが重要です。
- また、すべての子供たちが、社会の変化を柔軟に受け止め、生涯に渡って様々なことに粘り強く挑戦し、時にはリカレント教育にも取り組みながら、主体的に学び続けることができるよう、その素地を確実に養うことが求められます。
- 学校において、外部の人的・物的資源を積極的に教育活動に取り入れ、社会とのつながりを深めていくとともに、子供たち一人ひとりのおかれた様々な状況に応じて、社会全体で子供たちを支え、多様な学びの場を創出していきます。

[ICTの活用によって、子供たち一人ひとりの力を最大限に伸ばす「学び」^(教習×DX)]

- 子供たちの学ぶ意欲に応え、子供たちの力を最大限に伸ばすためには、これからの学校のスタンダードである、子供一人1台の端末と学校における高速大容量のネットワーク環境を最大限に活用していくことが重要です。
- デジタル技術を活用して何をどのように教えるのか、という観点から教育のデジタルトランスフォーメーションを強力に推進し、知識習得型の学びと探究型の学びのベストミックスを図り、教え方や学び方を改革していくことが必要です。
- また、子供たち一人ひとりの状況に合わせて学ぶ機会を拡充し、対面学習とオンライン学習を効果的に組み合わせ、感染症発生時や災害時など、いかなる状況でも子供たちの学びを止めない仕組みを構築していきます。
- さらに、学習データ等の活用により、エビデンスベースの最適化された学びを提供するとともに、蓄積されたビッグデータを教育施策へ反映・展開していきます。

3 「東京型教育モデル」の実践

(1) 「東京型教育モデル」とは

- 「東京の目指す教育」を実現するため、従来の教育の在り方を転換し、「子供の個性と成長に合わせて意欲を引き出す学び」「子供の成長を社会全体で支え、主体的に学び続ける力を育む学び」「ICTの活用によって、子供たち一人ひとりの力を最大限に伸ばす学び」という3つの学びを基軸として、新たな「学び」を創出していきます。
- また、「東京の目指す教育」の在り方は、社会の変化などにも柔軟に対応していくことが求められます。新たな学びを日々実践し、改善を繰り返しながら、理想の教育を追求し続けていきます。
- さらに、こうした教育の在り方を社会全体で共有することによって、子供たちの成長を支えていきます。
- 本大綱では、こうした全体の姿を総称して「東京型教育モデル」として位置付け、教育施策全体を展開していきます。

【東京型教育モデル】

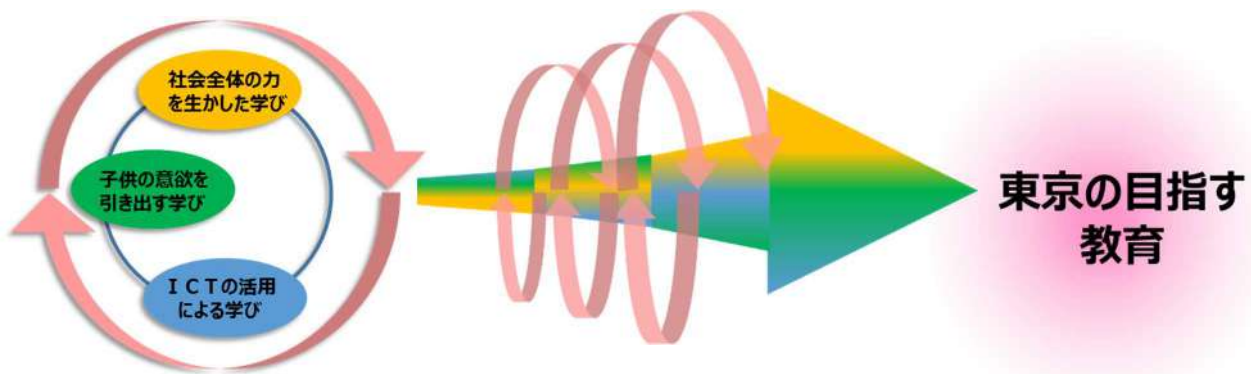
- ① 3つの「学び」[※]を有機的に連携させ、新たな「学び」を創出
- ② 新たな「学び」を日々実践・改善しながら、理想の教育を追求
- ③ 社会の変化に柔軟に対応しながら、東京の目指す教育を実現

【展開のイメージ】

① 新たな学びの創出

② 実践・追求

③ 理想の教育の実現



※3つの「学び」

- 子供の個性と成長に合わせて意欲を引き出す「学び」
- 子供の成長を社会全体で支え、主体的に学び続ける力を育む「学び」
- ICTの活用によって、子供たち一人ひとりの力を最大限に伸ばす「学び」 (教育×DX)

(2) 「東京型教育モデル」における学びの場

- 「東京型教育モデル」の実践において、子供たちの学びの場は、学校をはじめとして、地域や社会全体に広がっていきます。教育の理想やその実現に向けた取組を、学校や地域社会が共有し、連携して実践していくことが大切です。

① 学校の役割

[学校における教育活動]

- 学校は教育活動の中心的存在であり、「東京型教育モデル」の実践においても重要な場となります。
- 学校においては、これまでも、子供の興味・関心を生かした自主的・主体的な学習が促されるよう、「個に応じた指導」が重視されてきました。今後は、デジタル技術を活用した学習データ等を生かすことで、更に子供たち一人ひとりに最適化された学びを提供することが可能になります。
- また学校は、基礎的・基本的な知識・技能の修得のほかにも、他者との関わりや、集団や社会生活に関する教育、心の教育、健康や体力向上に関する教育等についても重要な役割を担っており、教員が様々な場面を通じて子供の状況を総合的に把握しながら、「知」「徳」「体」を一体的に育む教育を行っています。

[教え方、学び方の転換]

- 学校における人間同士のリアルな関係づくりは、社会を形成していく上で不可欠な要素であり、教員と子供の関わり合いや、子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での多様な体験活動など、様々な場面で実体験を通して学ぶことの重要性は、これからの時代にこそ、一層高まります。
- 今後、学校においては、これまで以上に外部の力を教育活動に取り入れ、社会とつながる体験や経験の場を設けることで、子供たちが新たな気づきを得られる、主体的な学びを実現することが必要です。
- さらに、デジタル技術や社会の力を活用することで、子供たち一人ひとりのおかれた様々な状況に合わせた、多様な学びの場につないでいくことも可能にな

ります。

- 教え方や学び方が多様化する中で、子供たちが一人ひとりの個性と成長に合わせた学びを主体的に続けられるようにするためには、一人ひとりの学びの進捗について、小学校から高校までのカリキュラムを通じ、適切に把握できることが重要です。
- 従来の「履修主義」、「習得主義」といった考え方のいずれかだけを選ぶのではなく、それぞれの長所を適切に組み合わせるなど、学校の制度面まで含めた教え方、学び方の転換を進める必要があります。
- 今後、各学校においては、これまで積み上げてきた教育の成果に加え、新たな学びの実践を組み合わせ、教育内容や方法の改善や充実を図り、理想の教育を追求していくことが期待されます。

[子供を導く教員]

- 学校において、子供を導いていく教員の役割は、非常に重要です。
- 教員は、子供たち一人ひとりの力を最大限に引き出すとともに、子供の主体的な学びを促す役割を担っています。
- これからの教員には、これまでの実践に加え、デジタル技術や社会の力を活用しながら、子供との関わりの中で成長やつまづきを見だし、よりきめ細かい指導や支援を行うことが求められます。
- そのため、教育の質の向上のためには、教員自身が社会の変化に柔軟に対応し、前向きに学び続けることが必要です。

[地域の拠点として]

- 学校は、子供たちの成長を支える場であると同時に、地域住民の活動を支える地域の拠点としての役割等も担っています。
- 学校においては、地域や社会とのつながりを子供たちの学びに生かすだけでなく、地域や社会の人々が活動の拠点として学校と関わることによって、地域に根ざし、社会全体で子供たちを支えていくことにもつながります。

② 地域や様々な主体と連携した多様な学びの場

- すべての子供が笑顔で伸び、育つためには、子供たち一人ひとりのおかれた状況に応じて、多様な学びの場を創出し、提供することが必要となります。
- 悩みを抱える子供たちも含め、一人ひとりの子供にとって最適な学びの場は様々です。子供たちが希望する将来への道を見だし、意欲を高めていけるよう、安心して学び続け、必要に応じて学び直すことも可能な環境を、整えていかなければなりません。
- 現在、地域や社会には、民間団体などの様々な主体が運営する多様な学びの場があります。子供たちが、学校をはじめとした多様な学びの場があることを知り、生涯を通じて自分に合った学びの場を選択し、学び続けることが可能な社会を実現していく必要があります。
- そのためには、学校を含む地域や社会の様々な主体が「東京型教育モデル」の考え方を共有し、互いに連携しながら、多面的・多角的に子供の成長を支え、見守っていくことが必要です。

第3章



「東京型教育モデル」で実践する特に重要な事項



第3章 「東京型教育モデル」で実践する特に重要な事項

- 本大綱では、第1章で示した「未来の東京に生きる子供の姿」や、第2章で示した「東京型教育モデル」の考え方を踏まえ、次の6つの事項を、特に重要で優先的に取り組む事項としました。

【「東京型教育モデル」で実践する特に重要な事項】

- 1 一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現
- 2 Society5.0 時代を切り拓くイノベーション人材の育成
- 3 世界に羽ばたくグローバル人材の育成
- 4 教育のインクルージョンの推進
- 5 子供たちの心身の健やかな成長に向けたきめ細かいサポートの充実
- 6 子供たちの学びを支える教師力・学校力の強化

- 各事項においては、「子供の個性と成長に合わせて意欲を引き出す学び」「子供の成長を社会全体で支え、主体的に学び続ける力を育む学び」「ICTの活用によって、子供たち一人ひとりの力を最大限に伸ばす学び」という3つの「学び」を、有機的に連携させながら施策を推進していきます。
- また、これらの事項は一つ一つが独立したものではなく、相互に密接な関係を有していることから、教育施策として一体的に展開していきます。

1 一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現

- Society5.0 時代の到来や、新型コロナウイルスの感染拡大など、予測困難な時代において、すべての子供が社会環境の変化に適切に対応し、人生を生き抜いていくためには、子供たち一人ひとりに合わせて、学びを導いていく必要があります。
- そのため、子供たちが、これからの社会を生きるために必要な基礎的、基本的な知識・技能を確実に習得できるようにするとともに、成長段階も踏まえて、それぞれの個性や能力に着目した最適な学びを提供していきます。

【施策例】・「TOKYO スマート・スクール・プロジェクト」の推進

・ きめ細かい指導による、基礎的基本的な知識・技能の確実な定着 等

2 Society5.0 時代を切り拓く^{ひら}イノベーション人材の育成

- 科学技術立国・日本の首都として、世界をリードする東京を実現するためには、子供たちが、Society5.0 時代を主体的に生きることができるようにするとともに、新たなイノベーションや価値を創造する人材、デジタルトランスフォーメーションを推進する人材、SDGs 等を踏まえた持続可能な社会づくりに貢献できる人材等の育成が必要です。
- そのため、思考力・判断力・表現力等を育む教育や、文系・理系に偏らない学び、SDGs の理念等を踏まえ、地域の課題から地球規模の諸課題まで幅広く自らの課題として考え、解決する力を育む教育等を実現していきます。

【施策例】・STEAM 教育、工業高校教育の改革・充実

・社会の持続的な発展をけん引する力を伸ばす教育 等

3 世界に羽ばたくグローバル人材の育成

- グローバル化が進む社会において、子供たちが活躍するためには、まず、子供たち自身が、我が国や郷土の伝統や文化を理解し、その上で、異なる言語や文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力や協調性、新しい価値を創造する力を身に付けることが大切です。
- また、子供たちが外国語を当たり前を使いこなすとともに、我が国の伝統文化等に立脚した広い視野や多様な人々と協働する力を持ち、豊かな国際感覚を身に付けて、世界をけん引していくことができる人材を育成する必要があります。
- そのため、デジタル技術の更なる活用を促進し、いつでも、どこでも、誰でも、外国語を学ぶことができる環境を整え、子供たちの語学力の向上を図るとともに、豊かな教養や論理的思考力、コミュニケーション力、異文化への理解、国際社会に生きるために必要なアイデンティティの育成を図る教育を行っていきます。

【施策例】・DXに対応した英語教育の推進

- ・多摩地域における体験型英語学習施設の整備 等

4 教育のインクルージョンの推進

- すべての子供が、自らの力を最大限に伸ばし、主体的、積極的に社会参加できるようにするとともに、互いを理解しながら交流し、支え合う体験を通して、一人ひとりの「心のバリアフリー」を実現することが重要です。
- 子供たちにとって、学校生活等を通じて多様な人々と共に学ぶことが大切であり、そのことが、他者への共感や思いやりの心を育て、誰もが共に交流し、支え合う共生社会を実現することにつながります。
- こうした教育のインクルージョンを推進するためには、病気や障害等の状況にかかわらず、すべての子供たちを受け入れる姿勢や様々な専門性が必要です。
- 様々な状況の子供たちが、学習活動に参加している実感や達成感を感じながら充実した時間を過ごせるよう、柔軟な仕組みによる多様な学びの場を創出し、多様な個性を持つ子供たちが互いを認め、尊重し合いながら学ぶ環境を整えていきます。

【施策例】・障害のある児童・生徒の能力を最大限に伸ばし、自立と社会参加・貢献を実現するための教育の充実
・社会的な自立を支援する学びのセーフティネットの構築 等

5 子供たちの心身の健やかな成長に向けたきめ細かいサポートの充実

- 心の問題や人間関係、家庭の状況など、子供たち一人ひとりの課題や悩み等は様々です。こうした様々な状況の子供に寄り添い、保護者や関係機関、外部の専門家等との連携を緊密に図るなど、これまでの学校や教員の知見に加えて、社会全体で子供たちの心身をきめ細かくサポートしていくことが大切です。
- また、我が国の礼節を重んじ、互いに助け合って生活する国民性や美徳など、よき日本の伝統を、道徳教育等を通じて子供たちに引き継いでいくとともに、他者への思いやり、掛け替えのない生命を大切にする気持ちなどを、一人ひとりの子供たちに確実に育んでいきます。
- さらに、生涯にわたって心身の健康を維持していけるよう、「知」「徳」「体」の「徳」や「体」に関する教育についても、充実を図っていきます。

【施策例】・健やかな体を育て、健康で安全に生活する力を育む教育の推進

- ・生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識等を育む教育の充実
- ・いじめ防止の対策や自殺対策に関する教育の推進 等

6 子供たちの学びを支える教師力・学校力の強化

- 重要事項の1から5までを実践するに当たっては、学びを支える教員や学校の力が^{かなめ}要となります。
- 学校や教員が持つ力を更に強化し、今まで以上に発揮していく必要があります。
- そのため、教員については、研修の充実等により、教科の専門性ととも、最先端の知識やデジタルリテラシー等に関する指導力の向上を、不断に図っていく必要があります。
- あわせて、新たな学びを担う優秀な教員を確保するための施策も重要です。
- また、学校は、新たな時代の学びへの対応とともに、子供の安全・安心を確保し、地域の拠点となる役割等も期待されています。
- 社会全体の力を生かして子供たちを育むために、学校と家庭・地域との連携・協働を充実させるとともに、学校における運営体制の整備や組織力の向上を図っていきます。
- また、学校においては、子供たちが、生涯にわたって学び続け、挑戦し続けるための素地を養うことできる環境を整備することも必要です。
- 学校が、地域人材や高齢者等との交流の拠点として機能し、災害発生時には地域の避難所になることなども踏まえ、防災の強靱化やバリアフリー化など施設・設備の充実を進めていきます。

【施策例】・これからの教育を担う優れた教員の育成

- ・教員の負担を軽減し、教育の質を向上させる「働き方改革」
- ・質の高い教育を支える環境の整備 等

参考資料 『『東京都教育施策大綱（案）骨子』に対する都民への意見募集』の結果について
意見募集の結果の概要

(1) 募集期間

令和2年12月21日（月）から
令和3年1月20日（水）まで

(2) 提出方法

電子メール又は郵送

(3) 意見の総数等

合計 64件 27人

(4) 内訳

ア 項目と件数

イ 属性と人数

属性	人数
ア 児童・生徒	1
イ 学生	0
ウ 保護者	7
エ 学校関係者	7
オ その他（個人・団体）	12
合計	27

項目	件数
第1章 「未来の東京」とそこに生きる子供たちの姿	
1 「未来の東京」の姿	13
2 「未来の東京」に生きる子供の姿	
第2章 東京における教育の在り方	
1 東京の目指す教育	25
2 「東京の目指す教育」の実現に向けて (1) 実現に向けた取組 (2) 基軸となる3つの「学び」 (3) 3つの「学び」を実践するための視点	
3 「東京型教育モデル」の実践 (1) 「東京型教育モデル」とは (2) 「東京型教育モデル」における学びの場	
第3章 「東京型教育モデル」で実践する特に重要な事項	
1 一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現	0
2 Society5.0時代を切り拓くイノベーション人材の育成	0
3 世界に羽ばたくグローバル人材の育成	3
4 教育のインクルージョンの推進	3
5 子供たちの心身の健やかな成長に向けたきめ細かいサポートの充実	2
6 子供たちの学びを支える教師力・学校力の強化	7
その他	
その他	11
合計	64

都民からの主な意見と見解

章	分野	主な意見	意見に対する見解
第 1 章	1 「未来の東京」の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来の東京の姿」にどれだけ都民の願いが反映されているのか。子供たちは「未来の東京」の担い手であり、「社会の宝」というのならば、まず子供たちの自身の願いを聴取することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都教育施策大綱の策定に当たっては、子供たちへのアンケートや聞き取りを行い、その内容は総合教育会議でも報告しています。また、本大綱の「参考資料」には、子供たちから聞き取った意見を掲載しています。今後も、子供たちの意見を聞く機会を大切にしていきます。
	2 「未来の東京」に生きる子供の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の社会をどう変えていくか、子供たちが主体的に考えることができるよう、意欲や能力をもつ子供たちを育てていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予測困難なこれからの時代において、子供たち自身が、生涯にわたって遭遇する課題や抱える悩みにしっかりと向き合い、能動的に解決しながら生きていこうとする力を身に付けることができるよう、本大綱に基づいて施策を展開していきます。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる」という「子供の姿」を、どうやって実現していくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本大綱は、今後の教育の方向性を示したものであり、具体的な施策は本大綱に基づいて今後展開していきます。なお、第3章において、特に重要で優先的に取り組む事項を示しています。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「多様な人々が生きる社会で他者への共感や思いやりを持つ」ということはすばらしいことだと考える。そのような社会を子供たちが作っていく、という未来に期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての子供たちが、自分を大切にすゝる気持ちと同様に多様性を認め、お互いを理解、尊重する気持ちを持つことが大切です。このことについては、第1章の2に記載しました。 ・第2章の3に記載した「東京型教育モデル」の実践により、その具現化を目指していきます。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「我が国には、礼節を重んじ、互いに助け合って生活する国民性や美徳がある」とあるが、我が国だけのこととは限らないのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統計数理研究所が実施した「日本人の国民性調査（第13次調査）」（平成27年2月）によれば、「日本人の長所として挙げられるものを具体的な10個の性質の中から複数選択可として選択してもらったところ、勤勉、礼儀正しい、親切、を選択した人が7割を超えている。」とされています。 ・グローバル化が進むこれからの社会においては、多様な文化や価値観を理解しお互いに協力し合うことが必要です。そのためには、まず自らが、我が国や郷土の伝統や文化を理解し、その上で、異なる言語や文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性などを身に付ける必要があると考えています。
		<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが将来への希望を持つためには、自己肯定感を高め、様々な能力等が伸長・評価されることが必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが将来への希望を持つためには、知識の習得だけでなく、自分の可能性を自分で認め、自己肯定感や自己有用感を持って、どのように人生や社会をより良いものにしていくのか、自ら考え、その持てる力を伸ばし、発揮していく力を身に付けていく必要があります。 ・このことについては、第1章の2に記載しました。

第 2 章	1 東京の目指す教育	<ul style="list-style-type: none"> ・「これまで以上に、子供や保護者、教職員の目線を大切にすることはすばらしいが、「子供目線」という表現は、再度検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本大綱で用いている「子供目線」という表現については、「子供が自ら伸び、育つための施策」を検討する際に、大人の思い込みで構築するのではなく、子供の立場に立ち、子供に寄り添って構築していくことを目指して用いています。今後、本大綱について周知する機会などに、丁寧に説明してまいります。
	2 「東京の目指す教育」の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰一人取り残さず」という表現にはどのような意図があるのか。否定的な印象があり、異なる表現の方が良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰一人取り残さず」という表現には、多文化共生社会の進展等により、ますます多様化するこれからの時代において、「様々な状況におかれた子供たちが、自らの個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができる」ことを目指すという意味を含めたものであり、重要なキーワードであると考えています。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「誰一人取り残さない」という理念はすばらしい。情報弱者に限らず、虐待を受けている子供、障害を理解されていない子供、貧困、不登校等、様々な子供たちを「取り残さない」という内容の拡充があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2章の2(1)③に記載しているほか、本大綱全体を通じて、東京都の目指す「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育」を実現するための取組の方向性を示しています。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「グローバル化を背景として、学習に言葉の壁を抱える子供も増えている。同時に、学校は様々な国にルーツをもつ子供が共に学ぶことが当たり前環境となっている。」という認識を評価する。様々な国にルーツをもつ子供のアイデンティティが不安定にならないように配慮することが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの違いを個性として受け止め、それぞれが自ら伸びようとする意欲を引き出す学びの実現が必要です。そのため、第3章の1や4に示したとおり、子供の状況に応じた教育を実践していきます。
	3 「東京型教育モデル」の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTによる学習履歴等を生かすことで、更に子供たちに最適化された学びを提供することが可能となるが、過去のデータで将来の選択肢を狭めることがないように注意する必要がある。学習履歴がいつまで保存され、何に使われるのか、データが流出する心配はないのか等々、不安を感じる点が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学習履歴等、教育データの活用に向けては、学校における環境整備のほか、教員の研修の実施等、様々な対応が必要になると考えています。一人ひとりに応じた質の高い学びの実現に向けて、環境整備とともに、教員の資質向上等の充実を図り、適切かつ効果的な教育データの活用に向けて、取り組んでいきます。
		<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人々が共に暮らす時代だからこそ、互いの違いに気づき、認め合い、プラスの力に変えていく経験を集団生活の中で実践することができれば、いじめや不登校なども改善されるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における人間同士のリアルな関係づくりや関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する多様な体験活動などの重要性は、これからの時代にこそ一層高まります。 ・このことについては、第2章の3(2)に記載しました。

第 3 章

「東京型教育モデル」で実践する特に重要な事項

全体を通じて	<ul style="list-style-type: none"> ・第3章以前の記述には、外部の力が必要と示されているが、重要事項1から6までに、明記されていないのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3章の1から6までの全体を通じて、デジタル技術や社会の力を活用した学びを検討し、展開していきます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・重要事項の1から6までに、コロナ禍に関する具体的な言及がない。保護者の立場からすると、「子供たちの今後の教育環境の担保」は重要なポイントである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本大綱では、第1章の1に記載のとおり、今後は、「サステナブル・リカバリー」の視点を踏まえ、「新しい日常」の定着やデジタルトランスフォーメーションの推進が図られていくものと考えています。また、第2章2(3)に記載したように、いかなる状況でも子供たちの学びを止めない仕組みを構築していきます。
1 一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現		
2 Society5.0時代を切り拓くイノベーション人材の育成		
3 世界に羽ばたくグローバル人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「我が国や郷土が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野」とあるが、「伝統や文化に立脚した広い視野」について、具体的に示してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会で活躍するためには、主体的に物事を考え、多様な文化や価値観をもつ人々に自分の考えを分かりやすく伝え、相手の立場に立って互いを理解することができる力が必要です。 ・そのため、まず自らが、我が国や郷土の伝統や文化を理解し、その上で、異なる言語や文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する力を身に付けることができるよう、育成していきます。
4 教育のインクルージョンの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子供と障害のない子供たちが互いを理解し、共生することは、とても大切なことである。これを重要事項に挙げたことは、大きな意義がある。「インクルージョン教育システム」ではなく、「教育のインクルージョン」と表現していることについては、定義を明示する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国においては、障害者の権利に関する条約に基づく「インクルージョン教育システム」の理念が重要であるとし、その構築に向けて、特別支援教育を着実に進めていく必要があるとされています。 ・本大綱で示す「教育のインクルージョン」は、「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育」の実現に向けて、様々な状況にある子供たちが、その力を伸ばし、多様な人々と接し、共に支え合うことができるよう、教育を充実させていくという意図で用いています。
	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの心は、大人よりもバリアフリーな面がありますが、それはまだまだ未熟で、揺らぐ部分でもあると思うので、様々な体験ができる環境を大人が作り、その中で、たくさん感じて考えて、心を育ててほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人々が共に暮らす社会においては、考え方や背景の異なる人々が共存することとなります。そのような社会を生きる子供たちには、自分を大切にす気持と同様に他者を受け止め、お互いを理解、尊重する気持ちを育てることが重要です。そのことは、第1章の2にも記載しました。

第3章	「東京型教育モデル」で実践する特に重要な事項		<ul style="list-style-type: none"> ・障害のない子供と一緒にではなく、特別支援学校で専門的な支援を受けたいと思っている親子もいます。その子のニーズに応じて親子が安心してその学校で障害特性に合わせた学習を受けられるように、環境と就学相談の整備をおねがいします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の有無等にかかわらず、一人ひとりの違いを個性として受け止め、それぞれが自ら伸びようとする意欲を引き出す学びの実現が必要です。そのため、第3章の1に示した取組も含め、子供に合わせた教育を実践していきます。
		5 子供たちの心身の健やかな成長に向けたきめ細かいサポートの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでなく、社会全体で子供たちの心身のきめ細かいサポートを行うことについて、具体的な施策案を示して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等、学校はこれまでも多様な専門家等と連携して、子供たちの心身のきめ細かいサポートを行ってきました。今後は更に、学校と地域社会の様々な主体が連携し、社会全体で子供の成長を支え、見守っていきます。 ・なお、施策の一例として、いじめ防止の対策や自殺対策に関する教育の推進等を示しています。
			<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって心身の健康を維持していけるよう、「知」「徳」「体」の「徳」や「体」に関する教育の充実を図ることは重要。生涯にわたって自らの健康を維持していくことは大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「徳」や「体」に関する教育について記載したほか、第2章の3(2)にも、「学校の役割」として記載しました。
		6 子供たちの学びを支える教師力・学校力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や教員の持つ力の更なる強化のために、地域でサポートできることはあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、学校においては、これまで以上に、地域を含む外部の人的・物的資源を教育活動に取り入れ、社会とつながる体験や経験の場を設けることにより、子供たちが新たな気づきを得られる学びを実現していきます。
			<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルを活用していく教員一人ひとりの意識が重要。校内研修やオンライン研修などで、教員への「教育」が着実に進むことを願う。デジタル弱者をなくすために、早期の機器や通信環境の整備を文面に示すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の例として記載したほか、第2章の2(1)や3(2)に記載しています。
			<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での学校・教員は、感染防止のための教育環境整備という新たな仕事加わり、本当に忙しく大変そうである。 ・教員の働き方改革の視点からも、サポート人材や教員のメンタルヘルスの視点が必要だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供を導く教員の役割は非常に大きく、こうした役割を果たしていくには、教員が心身ともに健康であることが重要です。 ・このことから、施策の一例として、教員の負担を軽減し、教育の質を向上させる「働き方改革」等を記載しました。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ」ためには、少人数学級を実現する必要がある。東京都教育施策大綱に明記すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国における、いわゆる義務標準法の改正による学級規模の見直しに対応するとともに、習熟度別指導の推進や教科担任制の導入など、様々な取組を総合的に講じることにより、小学校における教育活動の充実を図っていきます。 ・こうした考え方を踏まえ、第3章の1において、施策例を記載しました。 	

参考資料 「児童・生徒から意見の聞き取り」の結果について

東京都教育施策大綱の策定に当たり、大綱（案）の骨子について、児童・生徒からの意見の聞き取りを行いました。

概要（１）実施期間

令和３年１月８日（金）から令和３年１月２９日（金）までの期間 各校１日

（２）方法

都職員による対象校訪問、説明、ディスカッション等による。

（３）対象校

都内公立の小学校２校（２３名）、中学校２校（１７名）

高等学校１校（１２名）、特別支援学校１校（７名）計６校（計５９名）

主な意見	校種
・「自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる。」ようになるためには、自分を認めてあげようとする考え方が大切	中学校
・新しい学びでは、専門にしている人やそのことに詳しい人から教えてもらいたい。八村塁選手（NBA）のような人に学校に来てもらい、バスケットボールを教わりたい。	小学校
・対面学習とオンライン学習を効果的に組み合わせた学校生活は、とても重要	中学校
・未知の問題に対する対応力を育むには、受動的な体験だけでなく、子供が能動的に体験できる、型にはまらない柔軟な教育も大切	高等学校
・これからAIが発達する社会になっていくので、人と人とのコミュニケーションはとても大切。コンピューターなどをうまく使い、これからの社会に慣れていくことが必要	小学校
・先端技術が発達した社会において、ICTを発展させていく能力や、ICTに飲み込まれない論理的な思考や自ら考える力が必要	高等学校
・世界的に見て、日本の英語教育や国際理解教育は遅れている。グローバル化が進む中、英語力は今まで以上に必要	中学校
・グローバル化の進む今だからこそ、学生の頃から日本の文化に触れる機会を増やし、自分の生まれ育った国をよく理解し、誇りを持つことが大切	高等学校
・これからは海外の人々が増えるので、様々な個性を持った人々とお互いに認め合い、支え合っていきたい。	小学校
・子供たちの特徴を踏まえ、支援が必要な生徒のために動こうとする姿勢や思いやりを育むことが大切	特別支援学校
・インターネットの恐ろしさは、ウィルスや個人情報の漏洩以外にも、誹謗中傷やいじめにつながる場合もある。その危険性についても教育に入れてほしい。	中学校
・教育者全員がデジタルに対応できる技術を身に付ける必要がある。その技術を身に付ける機会を増やしたほうがよい	特別支援学校

掲載作品一覧

	表紙 上段左	作品名：「追う権利・追う責任」 都立八王子桑志高等学校1年 二荒 雄丞さん
	表紙 上段右	作品名：「未来を描く」 都立工芸高等学校1年 近藤 夏芽さん
	表紙 下段左	作品名：「少年の姿」 都立大泉桜高等学校1年 辻本 美琉香さん
	表紙 下段右	作品名：「今だ。夢に向かって飛び出そう。」 都立六郷工科高等学校3年 藤川 凜奈さん
	P.1 上段左	作品名：「未来へ駆け上がれ」 都立八王子桑志高等学校2年 平本 優莉奈さん
	P.1 上段中央	作品名：「都立魔法図書館」 都立工芸高等学校2年 里見 伸暁さん
	P.1 上段右	作品名：「夢を託して」 都立六郷工科高等学校3年 中嶋 薫梨さん
	P.1 下段左上	作品名：「POWER HEROES (パワーヒーローズ)」 都立羽村特別支援学校高等部2年 飛田 奏さん[※]
	P.1 下段左下	作品名：「一枚の四角模様から始まり、RPG風で終わった絵」 都立板橋特別支援学校高等部2年[※]
	P.1 下段右	作品名：「私達が持っている羽」 都立八王子桑志高等学校2年 中島 百合絵さん
	P.7 上段左	作品名：「トンボ」 杉並区立済美養護学校小学部6年 藤田 涼太郎さん[※]
	P.7 上段中央	作品名：「夢を受け止める未来の手」 都立六郷工科高等学校3年 田邊 爽さん
	P.7 上段右	作品名：「MIRAI」 都立中野特別支援学校高等部3年 森田 哲吉さん[※]
	P.7 下段左	作品名：「私たちの一声」 都立八王子桑志高等学校1年 木村 厘那さん
	P.7 下段中央	作品名：「躍進」 都立八王子桑志高等学校2年 五味 莉絵さん
	P.7 下段右	作品名：「紙版画 ぼく」 都立大塚ろう学校小学部4年 土屋 優空さん[※]
	P.19 上段左	作品名：「ハート」 都立田無特別支援学校高等部1年 金 怜恵さん[※]
	P.19 上段中央	作品名：「mind catch」 都立文京盲学校高等部2年 松原 一生さん[※]
	P.19 上段右	作品名：「創造は、想像から。」 都立工芸高等学校1年 中島 寿珠さん
	P.19 下段左	作品名：「わたしどり」 都立八王子桑志高等学校1年 山本 そらのさん
	P.19 下段右	作品名：「友だち」 都立八王子特別支援学校高等部3年 篠崎 竜也さん[※]

※の方は2020年1月時点、それ以外の方は2021年1月時点に在籍した学校名及び学年を記載

東京都